

道博協ニュース

第60号

発行所 平成9年(1997)9月25日
北海道博物館協会
事務局 北海道厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

「日胆地区博物館等連絡協議会の設立総会」の開催

平成九年五月十六日、日胆地区博物館等連絡協議会がめでたく設立の運びとなった。

ご承知の通り、北海道博物館協会では、かねてより道内の博物館園の地域ごとのプロック化を積極的に進めてきた。

そうした中で昭和六十年、道北地区博物館等連絡協議会が設立になったのを皮切りに、つづいて昭和六十二年には網走管内博物館連絡協議会、平成二年には道東三管内博物館等施設連絡協議会、平成三年には道南ブロック博物館施設等連絡協議会、そして平成五年には十勝管内博物館学芸職員等協議会がそれぞれに設立され、これまでに道内の大半の地域の博物館園等のプロック化が進められてきた。

ところが胆振・日高管内を含めた道央圏のプロック化をどうするか、今日までの長いこと大きな課題となっていた。

そこで、平成九年二月、黒崎康雄氏(浦河町立博物館協議会会長)、佐藤一夫氏(苦小牧市博物館館長)、久末進一氏(室蘭市民俗資料館館長)、山丸和幸氏(アイヌ民族博物館館長)、川又一善氏(平取町立二風谷アイヌ文化博物館館長)、地徳力氏(穂別町立博物館学芸主幹)ら有志六名により、日高・胆振管内の博物館園のプロック化に向けて設立準備委員会が結成された。

平成九年二月十二日、四月十九日の二回にわたる準備委員会が苦小牧市博物館で開かれ、会則や事業内容など、いわゆる連絡協議会としての体裁を整えるための基本方針について、原案としての骨子が固められ、設立にむけて準備が進められた。

そして五月十六日、いよいよ設立総会。

総会には五〇名もの管内博物館関係者の参加をみ、日胆

地区博物館等連絡協議会設立準備会を代表して、佐藤一夫氏が総会開催の挨拶をし、早速、議長として黒崎康雄氏が選ばれ、議事進行となる。

まず会則がきめ細かな審議により、原案通り承認された。役員は以下のように決定された。

会長 佐藤一夫(苦小牧市博物館館長)

副会長 黒崎康雄(浦河町立郷土博物館協議会長)、久末進一(室蘭市民俗資料館館長)

理事 川又一善(平取町立二風谷アイヌ文化博物館館長)、三谷隆征(静内町郷土館長)、水野洋一(様似郷土館長)、大江美津夫(穂別町立博物館館長)、山丸和幸(アイヌ民族博物館館長)、大島直行(伊達市開拓記念館館長)、地徳力(穂別町立博物館学芸主幹)、川内基(浦河町立郷土博物館学芸員)

監事 下川一忠(門別町図書館・郷土資料館長)、

吉田茂(洞爺湖森林博物館館長)

事務局長 吉田国吉(苦小牧市博物館主査)

そして事務局は苦小牧市博物館に置くことに決定。

またさらに、事業計画案、予算案が承認され、予定していた総会議事が滞りなく進められ、日胆地区博物館等連絡協議会の正式な発足となった。

引き続き行われた設立総会式典では、城戸崎彰北海道博物館協会館長並びに高橋義胆振教育局長に出席をいただいた。祝辞では、博物館のネットワーク化推進の意義性、生涯学習社会における博物館の重要性などについての含蓄あるお話しをいただいた。

式典の最後には、地徳力氏による記念特別講演「日胆地域の地史と古生物」で熱弁を振るっていただき、地球創世といった壮大なドラマでもって設立総会に花を添えていただいた。

(苦小牧市博物館主査

吉田国吉)

北海道博物館協会会長に就任して

吉田 和夫

今年七月、城戸崎前館長の後任として、私が北海道開拓記念館長に就任いたしました。同時に北海道博物館協会の規定により、同協会会長に就任することとなりました。

今年七月、城戸崎前館長の後任として、私が北海道開拓記念館長に就任いたしました。同時に北海道博物館協会の規定により、同協会会長に就任することとなりました。

をいただきました。いずれの問題も、会員皆様や地域の皆様のご協力なくしては進まない事柄ばかりでありまして、役員皆様の暖かいご支援をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。

近年、各市町村では郷土の歴史、文化的遺産を保存・展示し、多くの住民の方々に、おいては、みずからその遺産を継承する動きが活発になってきております。これは、週休二日制の定着や所得の向上に伴う暮らしのゆとり、余暇利用の積極、多様な展開、また、高齢化に伴う生涯学習の気運の高まりなどが背景にあるものと思われまます。

第四十五回全国博物館大会のご案内
今年度の大会の概要をご紹介します。

歴史文化に関する仕事に就くのは初めてであります。会員皆様のご理解とご協力をいただきながら、北海道博物館協会の発展のため、努力して参りたいと考えておりますので、よろしくお願いを申します。

早速、七月二十五日に、本年二回目の役員会が開催され、主として、平成八年三月に答申のあった基本問題検討委員会の報告書の内容を議題とし、長時間にわたり論議されました。それぞれが、協会の今後の運営にあたって、極めて重要な案件でありましたことから、議論が百出しましたが、役員皆様のご理解とご協力をいただくことにより、具体的に今後の方向が打ち出されましたことに、深く感謝申し上げます。

そのようななかで、いま必要とされていることは、道内博物館等のセンター的存在である北海道開拓記念館が、全道的見地に立って、各種博物館等の情報を集約し、保存、提供、交換すること、北海道における歴史文化や郷土文化を継承し、発展させることができ、それにより住民の要望や期待にこたえること

も可能となるのではないかと考えております。もとより、開拓記念館がセンターの性格を有しているという前提に立って考えますれば、これまで協会事務として処理していたものうちセンターとして担うべきものもありますことから、今後、センターとしての役割と協会としての役割の区分をある程度明確にして処理しなければならぬと考えており、行政サイドの理解のもとに、あわせて体制の整備も必要と考えております。

今年度の大会テーマは「教育普及活動の新たな展開を求めて―魅力ある博物館づくりのために―」とし、学校教育、成人学習活動、情報化との関連において、博物館の教育普及活動の新たな展開を図る方策と博物館におけるコンピュータ、マルチメディアの活用について検討を予定している。



特に、懸案となっております石狩・後志・空知地区の連絡協議会の設置問題について、積極的なご意見があり、また、開拓記念館と協会事務局の関係についてご理解のある意見

各博物館等のますますの発展を祈念いたしました。北海道博物館協会会長就任のご挨拶とさせていただきます。

各博物館等のますますの発展を祈念いたしました。北海道博物館協会会長就任のご挨拶とさせていただきます。

なご詳細につきましては、日博協大会係（〇三―三五九―一七一九〇）へご照会ください。



なご詳細につきましては、日博協大会係（〇三―三五九―一七一九〇）へご照会ください。

なご詳細につきましては、日博協大会係（〇三―三五九―一七一九〇）へご照会ください。

なご詳細につきましては、日博協大会係（〇三―三五九―一七一九〇）へご照会ください。

なご詳細につきましては、日博協大会係（〇三―三五九―一七一九〇）へご照会ください。

平成九年(社)日本動物園水族館協会北海道ブロック
春季飼育技術者研究会報告
 北海道ブロック事務局 向井 猛 (札幌市円山動物園)

道内十二の動物園・水族館と六名の会友で組織される社団法人日本動物園水族館協会北海道ブロックの平成九年度春季飼育技術者研究会が札幌市円山動物園にて開催されたので、次のとおり報告する。

●日 時：平成九年六月二十四日(火)、二十五日(水)

●場 所：札幌市円山動物園 動物科学館ホール



サンビエザ水族館
 【研究発表演題】
 一、カンテンダコの捕獲例 古賀 崇(小樽)
 二、特別展「丹後の海から大集合・宮津魚ツチング展」の開催に伴う夏休み期間におけるアンケート調査結果について 武田 明美(広尾)
 三、マルミミソウの飼育について 中田 真一(旭川)
 四、エゾシカの園内放し飼いについて 中山 悦朗(釧路)
 五、老衰で死亡したエゾヒゲマについて 伊勢 伸哉(クマ牧場)
 六、トドの出産に関する飼育経過について 本田 直也(円山)
 七、糞を利用したオットセイの食性分析に関する基礎実験 渡部 彰(小樽)
 八、アカカンガルーの顔の斑紋による個体識別について 伊藤 直實(帯広)
 九、芦別市旭ヶ丘公園におけるニホンザルの群れ結成と飼育経過について 三浦 圭(円山)
 十、オランウータンの飼育経過 高橋 悟(釧路)

●参加者：旭川市旭川動物園 中田真一、おびひろ動物園 伊藤直實、釧路市動物園 高橋 悟、中山悦朗、のほりべつクマ牧場 伊勢伸哉・佐藤光晴、市立室蘭水族館 村山幸夫、小樽水族館公社 古賀崇・渡部 彰、オホーツク水族館 小関光雄、ノシヤップ寒流水族館 小坂勝英、広尾海洋水族科学館 武田明美、サンビエザ水族館 二杉佳克、登別マリンパークニクス 守谷 浩・桑山未来・川原英世、札幌市円山動物園 三浦 圭・本田直也、計十八名

●日 程：●第一日目
 【研究発表】 演題一／十
 【特別講演】 「嗅覚・味覚からみた動物の生活」
 北海道大学実験生物センター 助手 上野 吉一 先生
 【懇談事項】
 ●第二日目 施設見学
 札幌市青少年科学館

以上の内容で第一日目は動物園、水族館の枠を越えて演題それぞれについて活発な討議が成された。上野先生の特別講演では、動物の嗅覚と味覚がその生活に及ぼす影響など普段知らない大変興味深い内容のお話を頂き、動物の行動学的手法を取り入れた新しい展示方法が示唆された。懇談事項では、この研究会の更なる発展のために幹事会の見直しなどが指摘された。第二日目の施設見学では、今年三月にリニューアルオープンした札幌市青少年科学館のバーチャリウムや新たな環境・生物科学系の展示物が次世代の展示として、環境教育・生涯教育を意識して造られており、目を見張るものがあった。また、サンビエザ水族館では、飼育の現場ということに参加者は時間ぎりぎりまで熱心に質問・見学をしていた。本研究会は、昭和五十三年度より毎年春と秋に二回開催さ

れており、日頃の飼育業務を通じての事例や研究の成果を発表し、また道ブロックで働く仲間として、お互いにコミュニケーションを計ろうとする会である。動物園と水族館という対象動物の差を乗り越えて、お互いに理解を深めることを目的にしている。今後も研究会の内容を検討する幹事会を充実させ、次期研究会(登別マリンパークニクス十一月開催)に期待し閉幕した。



第二回「北海道博物館協会ミュージアム・マネージメント研修会」博物館のマーケティング」の開催についてのお知らせ

この研修会は昨年の旭川での開催に次ぐもので、今年度はマーケティングをテーマに以下の内容でおこないます。

趣旨／今、物質的な豊かさよりも精神的な豊かさを求める時代になり、また個人はその欲求を個性のある手段で満たすことを願っています。

この人びとが自らの欲求によって学習する時代のなかで、博物館は人びとの欲求を的確に捉えて日々の事業の展開に反映させる必要があります。

このような背景のもと、ミュージアム・マネージメントのあり方を考える上での一つの重要な要素である博物館におけるマーケティングの意義と手法について考えます。

名称／第二回「北海道博物館協会 ミュージアム・マネージメント研修会」

テーマ／「博物館のマーケティング」

主催／北海道博物館協会、

日本博物館協会北海道支部
日程／平成九年十一月二十八日(金)

会場／北海道開拓記念館
開 会 12:30 / 13:00
講 演 一 13:15 / 14:30
講 演 二 14:45 / 16:00
研究協議 16:00 / 17:00
懇 親 会 18:00 / 19:30

対 象／博物館等施設の長および事務長職、事務職員、学芸員

内 容／
講演一(仮題)「イギリスの博物館・美術館におけるミュージアム・マーケティングの歴史と現状」講師 西山弥生氏(京都外国語大学文化資料室非常勤職員、大阪府島本町立歴史資料館整理室調査員)

講演二(仮題)「社会の変化と博物館—消費価値と顧客のファン化—」講師 赤羽俊男氏(株東芝コンセプトエン

ジニアリング開発部生活文化研究担当グループ長)

懇親会／アークシティー・ホテル(札幌市厚別区厚別中央二条五丁目6-2、TEL011-890-2525)参加費は五千円を予定しています。

申込／参加ご希望の方は十一月十四日(金)まで、道博協事務局にお申し込みください。事務局は札幌市厚別区厚別町小野幌53-2北海道開拓記念館内(TEL011-898-0456、FAX011-898-2657)です。

一泊/上記アークシティー・ホテルを用意しています。お申込の際、研修会の参加者であることをお伝えいただくと、割引宿泊料(七、三五〇円、一泊朝食つき、税込み)となります。十月三十一日までの特典です。

平成九年度第二回役員会報告
第一回役員会から一月半ほど過ぎた七月二十四日、札幌市フジヤサントラスホテルで、第二回役員会が開催されました。会議の中心となった議題は、平成六年の第三十三回旭

川大会で、道博協のあり方について問題提起され、昨年三月に集約された「北海道博物館協会 基本問題検討委員会報告書」を受け、これらの課題についての検討する役員分担任についての協議でした。

今回は多岐にわたる懸案事項を、当面する課題としてこれを五本の柱に整理し、その分担任は以下になりましたので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

一、道央ブロック博物館等連絡協議会(仮称)ー現在、未組織となっている石狩、後志、空知地区の組織化についての検討
担当・安藤孝次郎副会長、本間整理事、青木隆夫理事、三野紀雄理事

二、事業ー大会・総会のあり方、出版、研修、新規事業などについての検討
担当・佐藤一夫副会長、長尾章郎副会長、黒崎康雄理事、杉浦重信理事、矢野義和理事

三、表彰ー協会表彰の選考基準、方法などについて検討
担当・石黒靖敏副会長、津村孝理事、久末進一理事、保田信紀理事、熊坂吉寛理事

四、地域・広報ー①地域情報集約(道博協ニュース)への提供、②管内各地域の新会員の加入促進
担当・菅原繁昭理事(道南)、地徳力理事(日胆)、鈴木紘一理事(道北)、中川元理事(網走)、村田博理事(道東)、中村斎理事(石狩)、土屋周二理事(後志)、青木隆夫理事(空知)

五、組織・財政ー①事務局体制、②役員体制、③負担金のあり方、④国、道、市町村への要請などについて
当面、役員会において全体で検討する

最後に、協会の諸問題を「基本問題検討委員会報告」として集約され、三年余にわたる協会発展に尽力された城戸崎彰前会長が、満場一致で顧問に推挙されました。これまで空席であった北海道開拓の村選出理事として、組織より中村斎常務理事の推薦があり、役員会にて承認された。

(事務局長 山田 健)

地域の話題 その一

■網博協の活動と相互連携について

網走管内博物館連絡協議会（網博協）は、管内に設置された博物館と博物館相当施設によって組織されています。発足は昭和六十二年三月で、来年度で九十年を迎えます。網走支庁管内には市町村立や道立、財団運営によるものなど多くの博物館があり、協議会加盟館は現在二十五館にもなりました。

協議会では、設立の趣旨に添って年二回の研修会の開催、連絡誌の発行等の活動を継続しています。昨年度は前期研修会を六月に美幌博物館を会場に開催。一日目は学校教育との連携を課題にした研究討議、二日目は野外に出て魚類相調査の実習を行いました。後期研修では十一月に北網圏北見文化センターを会場に、早稲田大学の菊地徹夫先生によるオホーツク文化に関する講演がありました。今年度の前期研修会は七月に常呂町多

回発行の「オホーツクミュージアムインフォメーション（略称・OMI）」があります。この情報誌は道立北方民

族博物館の発行によるもので、各館の催し物案内、利用案内がA4版裏表にぎっしり詰め込まれています。来館者への情報提供を目的としています。各館のスタッフにとって

も他館の活動を知る良い情報源になっています。

網走支庁管内は広い地域に博物館が分散しています。それだけにこうした研修会の開催や情報誌の発行は、各博物館の活動内容の充実、相互連携に重要な役割を果たしています。（斜里町立知床博物館 館長 中川 元）

■重要文化財「北海道コタン温泉遺跡出土品」

今年の六月三十日に八雲町コタン温泉遺跡から出土した資料が、国の重要文化財に指定されました。

コタン温泉遺跡は、八雲町市街地より函館方向へ約四km向かったブエウヒ川の左岸段丘で、八雲町浜松二八九番地外に所在しています。この段丘は噴火湾に面した標高二〇〇～四〇mの海岸段丘で、遺跡

はこの段丘の標高二〇〇～三〇〇mに認められ、推定面積は九万㎡に及んでいます。遺跡の調査は、農道改良工事のために、昭和六十二年、平成二年にかけて四、九〇〇㎡発掘調査が行われ、縄文前

期／縄文後期初頭の住居址二七軒、縄文時代前期／晩期の土壘二七一基と炉跡十ヶ所、焼土四八ヶ所、柱穴一、三二

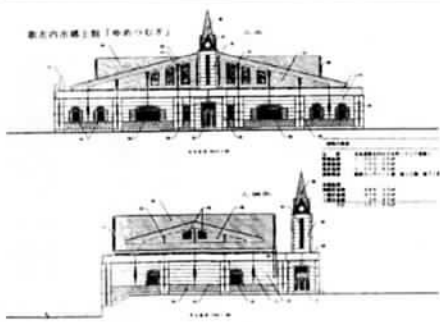
どの石器類六十六点、青龍刀形石器、岩偶、硬玉大珠、環状石製品五點、漁労、生活、装身具、儀仗などの骨角牙製品二四四点、貝刃、三角形貝製品の貝製品類十一點の総計三四六点です。特に特徴的な出土品は、色々な動物の骨、牙で製作された多種多様な骨角牙製品類です。釣針、銚頭等の漁労具、大小の縫針、針入れ、刺突具、剥離具等の生活用具、各種の叉状具、青龍刀形骨器等の儀仗具、魚骨製の平玉、鳥骨製の管玉、オットセイ、キツネ、サメの歯やキツネ、ウサギ、シカなどの骨を利用した垂飾やヘアーピン、櫛等の装身具類で、これらは縄文時代を理解するのに欠かせない資料であるとともに、縄文時代の技術の高さと、生活用具の多彩さをものがたっています。

は年一回の発行、加盟各館の活動紹介、網博協の事業報告、博物館運営に役立つ情報などを掲載、博物館相互の連携と情報交換の場としての機能を果たしています。管内の博物館情報誌にはもう一つ、年四

この調査で発掘された第三貝塚から出土した縄文後期初頭の余市系土器が使用されていた一時期の生活に関するもので、深鉢形土器などの土器類

また、垂飾には、イノシシの牙を利用したものがあり、本州との交流の実態を示す具体的な例としても学術上価値が高いものです。（八雲町郷土資料館 学芸員 三浦孝二）

m発掘調査が行われ、縄文前



■歌志内市郷土館「ゆめつむぎ」の開館への期待

今年十月、空知に又新しい資料館施設がオープンします。かもし岳スキー場やそこを会場に毎年開催される国際民俗音楽祭、温泉「チロルの湯」などで知られる歌志内市の郷土館「ゆめつむぎ」がそれです。空知は明治中期から農業と石炭の二大産業を背景に交通、集落等の発展をみた地域であり北海道の産業形成期の内陸開発の基点としての役割を担った地域でもあります。特に地下に広がる石狩炭田の開発は急速な人口の集中や市街地域の形成をもたらした空知の代表的産業として盛衰して

います。歌志内もその典型的な石炭産業に依って興された街の一つでした。石狩炭田北部（空知炭田）に開掘した空知炭鉱を中心として大小数多くの炭鉱を抱えた街としてエネルギッシュな発展を見ている。アイヌ語の「ウタシナイ（砂礫の多い河原）」が地名となり設村当時は現在の赤平市、芦別市を含む広大な行政区域を擁す地域でした。明治二十三年（一八九〇）空知探炭所の開設と同時に鉄道も敷設され、一躍その名が知られるところとなり、その後一世紀の間、石炭と共に街の歴史を刻んでいます。平成七年（一九九五）石狩炭田に残る最後の坑内掘炭鉱となった空知炭鉱が閉山、空知の石炭産業の終焉を迎えたことは記憶に新しいところです。

この歌志内市郷土館「ゆめつむぎ」は同市の開基百年事業のとりくみの中で永年地道な活動を続ける歴史資料保存会の真摯な提言と現在市が新しい街おこしとして進めているスイスランド構想を母胎として生み出されたものです。館内の展示の特徴としては3Dハイビジョンシアターやバーチャルシアターなど積極的な映像展示が計画されていること、又施設の機能としての歌志内の自然や産業、歴史など地域全体をサテライトとしてとり込むエコ・ミュージアムの中のコア（中核）・ミュージアムとしての位置づけが強

■美深町生涯学習センターの完成に向けて

美深町は天塩川が街の中を流れる自然の豊かな町です。この天塩川には昔チヨウザメが遡上していたという伝説があり、天塩川で捕獲をしたチヨウザメの幼魚がいまも保存されています。美深町では「びふかアイランド構想」を建て、街の整備に取り組んでいます。今年、チヨウザメ館がオープンし、幼魚から成魚まで見ることが出来ます。またびふか温泉ではチヨウザメ料理「キャビア」を食味することも出来ます。

一方、社会教育の核となる生涯学習センターも平成八年調されていることなど意欲的な意気込みが伝わってくるようです。基本計画の中で「郷土館についての認識が建物の完成が郷土館の完成ではなく始まりであると改めなければなりません」とあるとおりに新しい資料館の実験を感じさせるとして今オープンの準備が進められているところです。

（夕張市石炭博物館 青木隆夫）

度より建設が始まり、十年度には完成予定で工事が進められています。

この生涯学習センターには文化ホール、図書館、郷土資料館、公民館などの機能を持つことになっており、郷土資料館の展示工事もすでに発注され建築工事と並行して進められています。建物は二階建て（一部三階）で四八、〇〇㎡の敷地に六、三八一㎡の床面積をもち、美深町としては大変大きな建物です。

この建物の愛称は「美深町文化会館COM100」と命名されました。「COM100」の意味は「COMMUNICATION」（お互い町民が伝達しあうこと）、「COME」（施設にくる）、「WELCOME」（人々を歓迎する）の頭文字を取った町民の公募作品から採用され、さらに「100」は平成十年に開基百年を迎えることから「100」が加えられました。

生涯学習センター「文化会館COM100」は21世紀に飛躍する本町の生涯学習の拠点施設として、子供から高齢者までが生涯学習社会に対応できる条件を整えて美深町の教育推進を図っていきたくいとかんがえております。

この地方では一番高い山「函岳」（一一一九・三m）の頂上からの見晴らしが素晴らしい、オホーツク海、日本海、利尻富士が一望できます。また、高山植物など植生が豊かなため多くの研究者が調査に訪れますので、頂上に通じる道を平成六年度に整備しました。このように美深町では様々な形で街の整備に取り組んでいます。

（美深町教育委員会 菅野勝一）

新館・園紹介 北海道立文学館

沿線／環境

北海道立文学館がオープンしたのは、平成七年（一九九五）九月二十三日のこと。以来まる二年が過ぎ、新しい文学館の活動は徐々に本格的な軌道に乗りはじめています。

新しい文学館のスタートは、昭和四十二年に任意団体として設立され、同六十三年に財団法人化された北海道文学館

が多くの文学関係者の協力を得ながら長年にわたって積み重ねてきた文学展の開催や図書刊行、資料収集などの事業の延長線上で実現したものです。現在、文学館の管理運営には北海道教育委員会の委託を受けて財団法人北海道文学館があたっています。

北海道立文学館は札幌市の都心に広がる中島公園の一角に位置しています。池と小川と豊かな緑が特徴的なこの公園には江戸初期の茶室で大正期に札幌に移設された八窓庵

（国指定文化財）や、明治初

期洋風建築として札幌時計台とともに知られる豊亭館（同）、さらには最近オープンしたばかりの音楽専用ホール「キララ」もあり、多くの人々に親しまれています。文学館には、地下鉄南北線中島公園駅または幌平橋駅から歩いて七分ほどで到着します。

文学館の活動

北海道立文学館の活動は、大きく四つに分けられます。

① 展覧会

常設展示室では、常設展「北海道文学の流れ」を一年を通じて開催しています。ここでは、有島武郎、石川啄木、森田たまから八木義徳、三浦綾子、渡辺淳一など北海道にゆかりの深い文学者たちの今日までの足跡を小説や詩、短歌、俳句、川柳、アイヌの口承文芸、児童文学など各ジャンルごとにたどっています。展示資料は明治期以降のもの

が中心で、当館所蔵の二十一万点を超える文学資料から約千五百点を精選して紹介しています。懐かしい作家や詩人の直筆原稿や初版本、書簡・製（レプリカ）のほか、写真、解説パネル、文学地図等が各コーナーに配されているほか、現在の道内の文学状況についても概観できるようになっています。

特別展示室では、年二回の特別企画展と年一回の所蔵品展、また教育普及事業の一つ「たんけん文学館」の子ども向け展示などが特定のテーマにもとづいて催されます。

② 教育普及事業
まず、文学者を中心に専門性豊かな講師を招き、年二回の文芸講演会と年四回の文芸セミナーを講堂で開催しています。また、子ども向けの事業として「たんけん文学館」を実施しています。この事業では、特定のテーマに沿った展示のほかに「手づくり絵本教室」など実技講習なども行います。さらに、「映像鑑賞

のつどい」では、史上に残る文芸映画の名作などを上映するとともに、フィルム・レクチャーも実施します。

③ 文学資料の収集・整理・保存事業

北海道の文学にかかわる新たな資料のうち、必要なものを収集・整理・保存することは、文学館の大切な役割の一つです。収集された新たな資料は、現在収蔵する約二十一万点の図書・雑誌、直筆原稿、書類類、短冊・色紙などの貴重な文学資料に加えられます。これらはいずれも、収納庫・特別収納庫で一定の温度と湿度を保って保存管理され、利用者の方々に活用されています。

④ 調査・研究事業

北海道にゆかりの深い文学資料の所在や文学者の動向に目を向けながら情報を積極的に求め、調査・研究に務めることも文学館の大切な活動です。年報や研究紀要の編集・発行

や、展覧会等に即した解説書・図録・パンフレット・リーフレットの作成に係るスタッフがあたっています。

以上のほかにも、北海道立文学館では現在、インターネットなど新たな方法による情報発信の試みなどにトライしながら、多くの方々の来館をお待ちしています。

（事業課長 平原一良）

■問い合わせ先 札幌市中央区中島公園一番四号
電話〇一一五一一七六五五



館・園のおもな事業 (10月~12月)

●旭川市青少年科学館

「科学の夢図画コンクール」

11・1/9、「冬の科学教室」
12・26/28

●厚岸町郷土館

「移動特別展」11・1/3

●江別市セラミックアートセンター

企画展「[土のかたち]野幌
粘土の可能性」10月/11月

●帯広百年記念館

「アイヌ文化シンポジウム」

10月下旬

●上富良野町郷土館

特別展「開基百年の歴史」10
月下旬/11月上旬

●神田日勝記念館

絵画展「木田金次郎と神田日
勝展」10・1/12・21

●木田金次郎美術館

「木田金次郎と神田日勝展」

10・1/12・21

●釧路市立博物館

特別展「環境ポスター展」11
・2/12・7

●札幌芸術の森

「坂野守コレクション展」/

11・3、「冬のクラフト展」

11・1/12・28

●札幌市青少年科学館

「サイエンスショー」11・1、

「札幌市天文台夜間公開」10
・22/26、11・26/30

●札幌市豊平川さけ科学館

「サーモン・ウォッチング」

10月/11月

●札幌市円山動物園

「富山市との動物画交換展示」

10月中旬/11月中旬

●知内町郷土資料館

特別展「知内町が町になって30
年の歩み」10・25/11・9

●市立函館博物館

「函館山の自然観察」10・19

●砂川市郷土資料室

「我が家の秘宝展」11・1/
3、「新しい玩具展」12・1
/3・29

●苫小牧市科学センター

「冬休み親子科学教室」11・

13/14、プラネタリウム「冬
の夜間公開」11・29

●名寄市北国博物館

「植物画展」11月、「野外植
物展」11月

●根室市博物館開設準備室

「土器づくり」10・5、「歴

史散歩」11・3

「登別市郷土資料館

「三世代陶芸展」10・1/30、

「資料館活動の記録写真展」

11・1/30

●函館市北方民族資料館

ミュージアム・トーク「極北
の民イヌイト」10・18

●美唄市郷土史料館

「第50回特別展」10・22/11・30

●美幌博物館・農業館

特別展「湿地の生きもの」/

11月

●北海道開拓記念館

特別展「北の古代史をさぐる
擦文文化」/11・30

●北海道開拓の村

特別展「福土成豊」11・1/
1・18

●北海道立旭川美術館

特別展「いす・100のかたち」
/10・26、特別展「絵画と平面

の多様性」11・1/12・21

●北海道立帯広美術館

「マルク・シャガール展」10
・25/12・7、「知られざる

インド更紗展」12・13/1・25

●北海道立オホーツク流水科学センター

絵画展「オホーツクの四季」

10・25/11・9

●北海道立近代美術館

特別展「THE GLASS SKIN
ガラスの新世纪」10・1/
11・16、特別展「コレクション
の精華」11・22/12・14

●北海道立函館美術館

「日本の美・雅の世界」/10
・25、ピカソ「愛とエロチシ
ズム」11・1/12・7

●北海道立文学館

特別展「青春と文学」/11・7

●北海道立北方民族博物館

「北方民族文化シンポジウム」

10・15/16

●三笠市立博物館

特別展「北海道の植物化石」

10・5

●室蘭市青少年科学館

「科学技術振興作品胆振地方
展」10・9/12、「室蘭小中、
聾学校理科研究発表会」11・23

●事務局日誌 (七月~九月)

7・1 北海道博物館協会の会

長に吉田和夫就任

7・1 平成九年度日博協頭

彰候補者申請書を加盟館園に

7・8 平成九年度第二回道

博協役員会開催案内送付

7・11 平成九年度春期飼育

技術者研究会報告書受領

7・15 平成九年度日胆地区、

道東三管内博物館施設等連絡

協議会に交付金送付

7・18 道博協三役会議開催

(於、北海道立近代美術館)

7・20 平成九年度日博協頭

彰推薦書類送付

7・24 新北海道博物館ガイ

ドブック編集実務者委員会開
催、事務局長出席

7・25 平成九年度道博協第
二回役員会開催(於、フジヤ
サントスホテル)、前会長城
戸崎彰氏顧問に推挙される

8・23 '97北海道化石サミッ
ト後援承認(於、沼田町)

8・25 平成九年度道博協学
芸職員研修会開催案内送付

9・1 臨時事務職員、橋場
葉子さん採用

9・5 「北海道の博物館」
原稿執筆依頼(学芸職員部会
主管)

9・10 平成九年度日博協頭
彰結果受領(一号規定 旭川
兵村記念館 芝山武雄氏)

9・25/26 平成九年度道博
協学芸職員研修会開催、事務
局長出席